

【愛媛県】土地改良を契機とした農村地域の振興事例集

市町村	地区名等	タイトル	頁	発行月	Vol.
八幡浜市	真穴	4つの太陽を活かした「真穴みかん」ブランドの維持・向上	1	H28.06	1
伊方町	川永田	加工品の開発や道の駅での販売で地域を活性化	2	H29.08	3
西条市	大兵衛南	基盤整備を契機とした高収益作物の生産拡大	3	R4.03	8
東温市	牛渕	基盤整備と排水対策の両輪で優良農地と担い手を確保する	4	R5.03	9
西条市	古田上池	防災重点農業用ため池の防災工事による下流被害の防止	5	R7.03	11

4つの太陽を活かした「真穴みかん」ブランドの維持・向上

まあな

やわたはまし

【愛媛県八幡浜市】

体制づくり

栽培作物
・方法

加工・出荷

販売

【工夫のポイント】

- 光センサー選果機の導入により糖度等の均質化を図るなど、徹底した品質管理を実施。「4つの太陽」をテーマとした6次産業化にも取り組むなど、地域ブランドである「真穴みかん」ブランドの維持・向上を実現。
- みかんアルバイト制度を通じて、県内外の若年層を中心とした労働力確保と地域ファンの取り込みを図る。

【取組地域の概要】

- 位置 やわたはまし
愛媛県八幡浜市(特定農山村等)



- 傾斜
・平均15°程度
- 主要作物
・みかん
- 主な支援施策
・国営かんがい排水事業(S49~H11)
・県営かんがい排水事業(S57~H8)
・中山間地域等直接支払交付金(H12~)
・多面的機能支払交付金(H27~)
・経営高度化対策事業(H13~H14)
・産地再生緊急整備事業(H24)

農業用水の安定供給による労力軽減と品質・収量の安定化

スプリンクラーの共同利用を通じた防除、かん水により大幅に労力の軽減が図られるとともに、天候に左右されない果樹生産が実現。



国営事業で整備された調整水槽



スプリンクラーによるかん水

基盤整備 (S49年~H11年)

【整備前】

昭和30年代に真穴ブランドを確立。しかし、急傾斜でかんがい施設も整備されておらず、トラックで何度も水を運ぶ手散布によるかん水を余儀なくされ、品質・収量が不安定であった。
(S42に大干ばつに見舞われた際には、250億円の被害。
(南予地方全体))



取水を待つトラックの列(イメージ)

生産現場

外部人材との連携による労働力の確保

- みかんアルバイトの募集を通じて、若年層を中心とした繁忙期の労働力を確保。



・宿泊所「マンダリン」(H27年度開設) 利用者25名
・ホームステイ等 32名(H6年度) → 約150名(H27年度)

加工・流通

品質管理の徹底等による地域ブランドの維持・向上



光センサー選果機

- 真穴柑橘共同選果場(光センサー選果機)による品質管理
→ 糖度・酸度のほか傷果・腐敗果も検出が可能
- 太陽光と海面・石垣からの反射光、みかんづくりへの情熱からなる「4つの太陽」をテーマに、加工品の開発・生産・販売に取り組むなど、ブランドを強化。

担い手

地域の若年層が中心となった担い手づくり

- 新規就農者5名(過去5年(H27時点))
- 若手農業者からなる同志会を設立
・ 営農技術の情報交換や栽培技術の継承

地域ブランドの確立等による地区内農家の平均販売額の増加

- 外部人材との連携や新技術の導入により、地域ブランドの維持に努め、販売額の向上を実現。



【みかん作経営農家の平均販売額(真穴地区内の農業者を対象)】
約800万円/戸(S59) → 約1200万円/戸(H25)



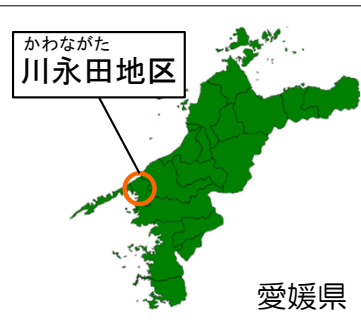
【出典: JA西宇和真穴共選調べ】

露地温州みかん作経営における販売額の全国平均(約300万円)の約4倍を誇っている。

注)「販売額」は、経営統計上の「農業粗収益」を指す。

地域概要

いかたちょう
愛媛県伊方町(特定農山村等)



- 【主要作物】
- ・温州みかん、中晩柑(せとか、デコポン等)
- 【主な基盤整備】
- ・国営かんがい排水事業(S49~H8)
 - ・県営かんがい排水事業(S60~H7)

用水の安定供給と防除作業の軽減

【整備前】

かんがい用水や防除用水は天水に頼っており毎年のように干ばつの脅威にさらされてきた。また、手がけの防除作業は農家にとって重労働となっており、後継者の確保の支障となっていた。



手がけ防除(イメージ)

基盤整備

(S49年~H8年)

【整備後】

- 水源の確保とともに、スプリンクラーを整備し、**用水の安定供給が可能**となるとともに、**防除作業の負担を軽減**。
- スプリンクラー整備済の樹園地では後継者の育成が進展。



スプリンクラーによる防除(イメージ)

女性たちの声



T. Kさん

川永田地区
みかん農家で、
伊方生活研究
協議会の一員

VOICE

作業時間が軽減されたおかげで
加工品の開発や販売に打ち込めた！

- 整備前は、**1週間程度かかる防除作業を年間で10回程度も実施**していました。**園内での防除作業は、重労働**である上、肌が強い人でも皮膚がかゆくなる作業でした。
- 急傾斜園地内での防除作業は、主に男性が担当し、女性**は薬剤準備等の補助作業**を行っていました。
- **スプリンクラーが整備されたことで、防除作業は夫1人で1日でする**ようになりました。これまで補助作業をしていた女性は、皆で集まって加工品の開発や道の駅などの販売ができるようになりました。

私たちのチャレンジ

Action 1



芋ジャム

- 伊方町とみかん農家の女性15人で組織する伊方生活研究協議会が共同でブランドサツマイモ「金太郎いも」に**温州みかん果汁を加えた「芋ジャム」を開発**。

Action 2

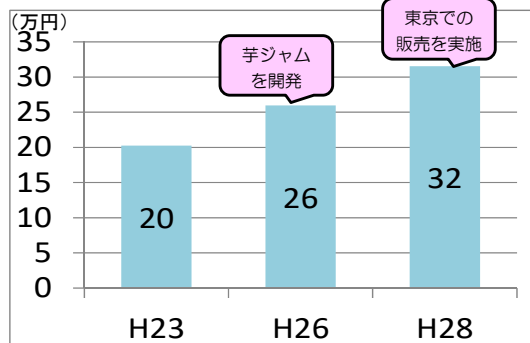


- 道の駅で「芋ジャム」や「いよかんマーメイド」など、**開発した商品を販売**しています。近年では、東京での販売も始めることができ、開発・販売した商品の売上げで協議会メンバーと旅行に行くのが楽しみです。

農業の継続と加工品の販売による地域活性化

- 「芋ジャム」などの開発商品を街のイベントや道の駅、東京などのアンテナショップで販売し、地域の活性化に取り組む。

開発商品(芋ジャムやいよかんマーメイド等)
の販売額の推移



【出典:伊方生活研究協議会からの聞き取り調査】



道の駅「伊方きら館」

開発・販売しているジャムは、東京での販売も好評！

【対策のポイント】

- 区画整理により農地を大区画化し、営農効率が向上。
- 暗渠排水等の整備により水田を汎用化し、高収益作物の生産が拡大。
- 高収益作物の生産額は5.5倍の増加。作付面積は約8倍の増加。

【取組地域の概要】

- 位置 さいじょうし
愛媛県西条市

愛媛県



- 事業名
農業競争力強化農地整備事業(H23～R2)
- 主要作物
水稲、麦、キャベツ、ホウレンソウ、サトイモ
- 受益面積 31.8ha
- 主要工事
区画整理:31.8ha、暗渠排水:31.8ha

区画整理と暗渠排水の整備

- 整備前のほ場は狭小、不整形で道路・用排水路も未整備。加えて、低湿地で排水条件が悪く、遊休農地の拡大を危惧。
- 区画整理と暗渠排水の整備により、農地の大区画化、汎用化が実現し、農作業の効率化、高収益作物の導入が進展。



排水条件の悪いほ場



整備後のほ場

基盤整備
(H23～R2)

暗渠排水整備で汎用化



農道下の排水管

パイプラインも整備

大型機械も導入



高収益作物の導入や生産拡大に向けて

- 担い手による振興作物であるキャベツ、ホウレンソウ、サトイモ等の高収益作物の計画的な作付け。



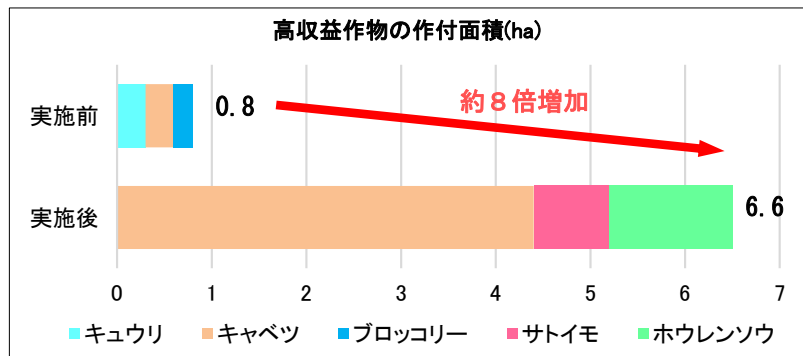
高収益作物の作付け拡大

- 高収益作物の生産額は400万円から2,200万円に増額。
- 高収益作物の作付面積は0.8haから6.6haに拡大。

サトイモ収穫の様子



高収益作物の作付面積(ha)



地域の取組

対策の効果

【工夫のポイント】

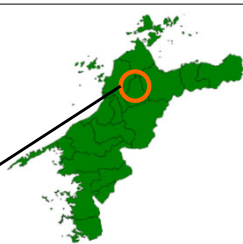
- ほ場が狭小・不整形なことに加え、地形的条件により、たびたび湛水被害が発生し、担い手の耕作意欲の低下や遊休農地の拡大が懸念された。
- 地区の課題に対し、市と県が連携、役割分担し、区画整理と排水対策を展開。
- 区画整理と排水対策により営農効率の向上、高収益作物の安定生産が実現。
- 認定農業者が増加し、近隣地域へも基盤整備の取組が波及。

【取組地域の概要】

- 位置 とうおんし
愛媛県東温市（山村、特農）

愛媛県

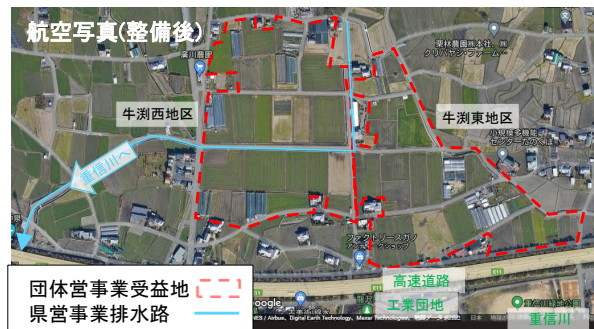
うしぶち
牛湫地区



- 主要作物
・水稻、麦、大豆、花き、いちご
- 主な支援施策
・農山漁村活性化プロジェクト支援交付金 (H23～H28)
・農業基盤整備促進事業 (H28)
・農地耕作条件改善事業 (H29)
・経営体育成基盤整備事業（排水対策型） (H22～H24)
・水利施設整備事業（排水対策特別型） (H25～H28)

役割分担を行い効果的な基盤整備を展開

- 区画整理は地域の細かいニーズに応えられる団体営で実施し、効率的な営農が可能なほ場に再編するとともに、排水路整備は周辺地域も含めた広範囲において県営で実施し、湛水被害の解消と汎用化を推進。



基盤整備

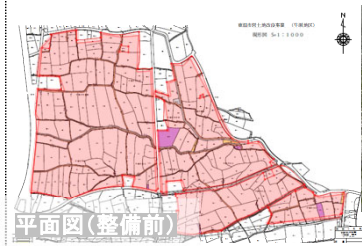
(H23年～H29年)

【整備前】

- 狭小かつ不整形なほ場であり、道路も狭小のため、非効率的な営農形態。
- 河川や高速道路、宅地等に囲まれ大規模なほ場整備が難しい上に、雨水が集まる地形でしばしば湛水被害に見舞われ、汎用化が困難。



耕作意欲の低下と遊休農地の拡大が懸念。



基盤

生産現場

農作業の効率化と湛水被害の未然防止

- 区画整理により大型の農業機械や運搬車両の導入が可能となり作業が効率化。
- 湛水の不安が解消され、水稻に加えて花き(路地、ハウス)、いちごなどの高収益作物の安定生産が実現。



地域の取組

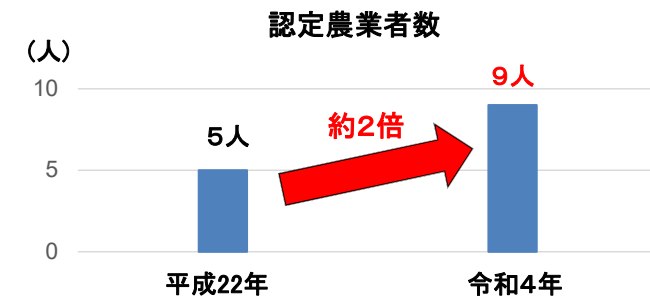
地区意見を事業に反映し優良農地を確保

- 区画整理と並行し、周辺地域を含めた広範囲での排水対策の必要性を考慮した整備計画を提案し、関係者の合意形成を図った。
- 団体営と県営を両輪とした事業の実施を実現させ、優良農地の構築に繋げた。



意欲ある担い手の確保と高収益作物への転換

- 基盤整備を契機に新規就農者が増加。
- 認定農業者数は約2倍になり、さらに近隣地域へも基盤整備の取組が波及。



- 今後、シクラメンなどの高収益花きの栽培を予定しており、品質第一で栽培に取り組み、販売額の増加につなげていくこととしている。

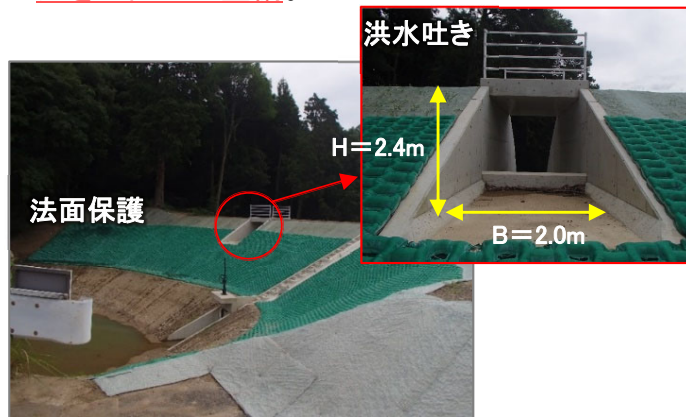


【工夫のポイント】

- 古田上池は築造後約120年が経過し、洪水吐きの断面不足や堤体からの漏水が確認され、決壊により甚大な被害が発生するおそれ。
- このため、堤体断面の拡幅や洪水吐きの流下能力の向上など、ため池を全面的に整備。
- 防災工事により優良農地や住宅等への被害を未然に防止し、地域住民の安全・安心を確保。

ため池の防災工事を実施

- 堤体断面の拡幅や洪水吐きの流下能力の向上など、ため池を全面的に整備。



基盤整備

(H30年～R5年)

【整備前】

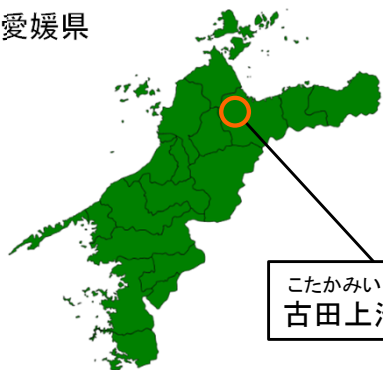
洪水吐きの断面不足や堤体法面の浸食、堤体からの漏水が確認され、決壊のおそれ。



【取組地域の概要】

- 位置 さいじょうし
愛媛県西条市

愛媛県



こたかみいけ
古田上池地区

- 主要作物
・水稻
- 主な支援施策
・農村地域防災減災事業(H30～R5)

ため池の防災工事により地域の営農が保全

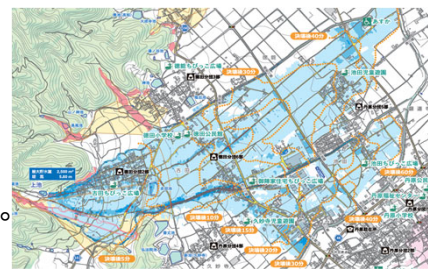
- 本池の受益地では、愛媛県が開発したブランド米「ひめの凜」が栽培。



生産現場

ハード・ソフト両面からのため池防災減災対策

- 西条市では、ハザードマップの作成・公表や愛媛県ため池保全サポートセンターの活用等のソフト対策を実施。
- ハード対策と併せてため池の防災減災対策を推進。

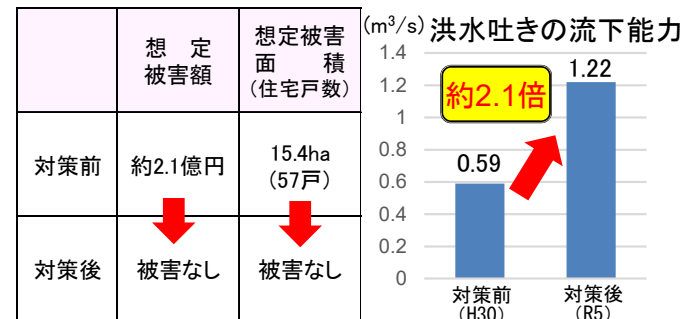


古田上池ハザードマップ

地域の取組

堤体の決壊を防止し、下流の被害を回避

- ため池の防災工事により、堤体決壊によって被害の及ぶ恐れがあった下流の優良農地や住宅等への被害を未然に防止し、地域住民の安全・安心を確保。



水田の大区画化・汎用化の推進

- 本池の受益地では、国営緊急農地再編整備事業「道前平野地区」により、水田の大区画化、汎用化を実施中。

道前平野地区の受益地

